

人間総合学群 心理学類 / 人文科学研究科 臨床心理学専攻							
氏名	丸山 慎	職名	教授	専攻分野	心理学	学位名	博士(教育学)
主要業績(著書・研究論文併せて5点以内)							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・Human-Technology Interaction and Music Perception and Performance: Toward the Robust Design of Sociotechnical Systems. <i>Proceedings of the IEEE</i>. 92, 616-631, April, 2004. doi: 10.1109/JPROC.2004.825881 (共著)</li> <li>・「交響を知る身体ー指揮者はいかに音楽を現実に行っているのか」. 佐々木正人(編)『アート/表現する身体: アフォーダンスの現場』, 第4章, pp.87-119, 東京大学出版会, 2006年8月. (分担執筆)</li> <li>・「音楽を修辞する身体の技法ー演奏家の身振りと表現に関する事例と考察ー」. 『認知科学』, 14, 471-493, 2007年12月 (単著)</li> <li>・発達ー身体と環境の動的交差としてー. 佐々木正人(編)『知の生態学的転回1 身体: 環境とのエンカウンター』, 第1章, pp.37-67, 東京大学出版会, 2013年6月 (分担執筆)</li> <li>・Change occurs when body meets environment: A review on the embodied nature of development. <i>Japanese Psychological Research</i>, 56, 385-401. October 2014. doi: 10.1111/jpr.12065 (共著)</li> </ul>							
最近5年間の業績(2018年度~2022年度)							
<p><b>【著書】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人が奏でることの意味: その始原と資源からの考察. 日本音楽教育学会 設立50周年記念出版編集委員会(編)『音楽教育研究ハンドブック』, 第1部第1章1-1.4, pp.18-19, 音楽之友社, 2019年9月 (分担執筆)</li> <li>・演奏表現の発達. 大串健吾・桑野園子・難波精一郎(監修)『音楽知覚認知ハンドブックー音楽の不思議の解明に挑む科学ー』, 第9章4節7, pp.247-248, 北大路書房, 2020年2月 (分担執筆・共著)</li> <li>・楽器の「用」にあう: 物の探索から文化的な意味の発見へ. 今川恭子(編著)『わたしたちに音楽がある理由: 音楽性の学際的探求』, 第3部第16章, pp.222-237, 音楽之友社, 2020年6月 (分担執筆)</li> </ul> <p><b>【論文】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「楽器を用いた親子遊びの動画データベース」構築の試みー概要および研究利用への展望ー. 『認知科学』, 27, 595-606. 2020年12月 (共著)</li> <li>・Enriching children's experience of hearing with an original sound-collecting instrument: A pilot study. <i>The proceedings of the 13th Asia-Pacific Symposium for Music Education Research</i>, 245-252, September 2021. (共著)</li> <li>・「音楽性」が導く文化的な価値の学習: 親子の楽器遊びにおける行動の資源の共有と Communicative Musicality. 『乳幼児医学・心理学研究』, 31, 21-27. 2022年9月</li> <li>・音の生態学的事実についての教育: 「集音」楽器による子どもの音楽活動の試み. 『認知科学』, 29, 630-649. 2022年12月 (共著)</li> </ul> <p><b>【科研報告書】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・科学研究費助成事業 研究成果報告書 研究課題名「音楽的行動の発達基盤に関する研究: 身体性認知科学および生態心理学からのアプローチ」(基盤研究(C), 研究代表者, 課題番号: 15K00212) 2019年6月 <a href="https://kaken.nii.ac.jp/ja/file/KAKENHI-PROJECT-15K00212/15K00212seika.pdf">https://kaken.nii.ac.jp/ja/file/KAKENHI-PROJECT-15K00212/15K00212seika.pdf</a></li> </ul>							

#### 【一般雑誌・Web 記事他】

- ・〈研究室紹介〉駒沢女子大学人間総合学群心理学類：発達科学研究室. 『日本発達心理学会ニューズレター』(85), 15-16. 2018年10月. (単著)
- ・ヤマハ音楽研究所主催「子育て×音楽—音楽でより深まる親子のきずな—」イベント Report. 『ON-KEN SCOPE』ヤマハ音楽研究所, 2018年10月2日掲載,  
[https://www.yamaha-mf.or.jp/onkenscope/onken7\\_chapter1/](https://www.yamaha-mf.or.jp/onkenscope/onken7_chapter1/)
- ・音の高低を聞き分ける!? 赤ちゃんの豊かな「音把握力」. 『ON-KEN SCOPE』ヤマハ音楽研究所, 2019年1月17日掲載, [https://www.yamaha-mf.or.jp/onkenscope/maruyamashin4\\_chapter1/](https://www.yamaha-mf.or.jp/onkenscope/maruyamashin4_chapter1/)
- ・編集後記. 『認知科学』, 26, 2019年6月.
- ・《連載》音楽研究って面白い!—音楽心理学・丸山 慎先生—(1)「専門を決めるまでの長い長い道のり」. 『ON-KEN SCOPE』ヤマハ音楽研究所, 2019年8月29日掲載, [https://www.yamaha-mf.or.jp/onkenscope/maruyamashin5\\_chapter1/](https://www.yamaha-mf.or.jp/onkenscope/maruyamashin5_chapter1/)
- ・《連載》音楽研究って面白い!—音楽心理学・丸山 慎先生—(2)「研究活動の面白さ」. 『ON-KEN SCOPE』ヤマハ音楽研究所, 2019年10月24日掲載, [https://www.yamaha-mf.or.jp/onkenscope/maruyamashin5\\_chapter2/](https://www.yamaha-mf.or.jp/onkenscope/maruyamashin5_chapter2/)
- ・《連載》音楽研究って面白い!—音楽心理学・丸山 慎先生—(3)「研究への思い」. 『ON-KEN SCOPE』ヤマハ音楽研究所, 2019年12月26日掲載, [https://www.yamaha-mf.or.jp/onkenscope/maruyamashin5\\_chapter3/](https://www.yamaha-mf.or.jp/onkenscope/maruyamashin5_chapter3/)
- ・子どもと音あそび. ヤマハ株式会社 幼児期の音遊びによる非認知能力育みに関するインタビュー. 2023年1月

#### 【学会発表・シンポジウム・講演等】

##### 〈2018年度〉

- ・音楽的行動の発達を記述する枠組みとは? : DSA およびアフォーダンスを手がかりとして. 日本赤ちゃん学会第18回学術集会 自主企画ラウンドテーブル「赤ちゃんと言語を考へる思考枠組みの挑戦: 『絆の音楽性』を契機として」(話題提供) 2018年7月7日, 東京大学本郷キャンパス.
- ・Why is music essential for child development? Perspectives from developmental psychology and music education. *YMS (Yamaha Music School) Teacher Forum Asia 2018*. (Invited lecture). August 30, 2019. Yamaha Music Foundation, Tokyo, Japan.
- ・どうして音は楽しいの?—子どもの音体験に寄り添うことから見えてくるもの. ヤマハ音楽研究所主催イベント「子育て×音楽—音楽でより深まる親子のきずな—」(セミナー講師) 2018年8月31日, 中目黒GTプラザホール(東京・中目黒)
- ・“意味”の在処としての環境—探索を促し, 子どもの発達をみまもるために—. こころの子育てを考へる会『はぐはぐ』(セミナー講師) 2018年9月14日, すずらん会館(東京・経堂)
- ・赤ちゃんと言語—アフォーダンスの視点から. 日本赤ちゃん学会 平成30年度音楽表現講座「赤ちゃんと言語」(講座講師) 2018年12月15日, 聖心女子大学.
- ・Musicalityの資源に会う—物理的環境とのかかわりに着目して—. 日本発達心理学会第30回大会ラウンドテーブル「子どもと言語とのかかわりを『環境』から考へる—〈場〉・〈声〉・〈行為〉に着目して—」(企画・話題提供) 2019年3月18日, 早稲田大学戸山キャンパス.
- ・演奏する身体のパラダイム: 鳴り響く音に埋め込まれた“意味の踊り”として. 日本発達心理学会第30回大会 自主シンポジウム「発達を導く音楽性—マロック&トレヴァーセン(編著)『絆の音楽性:」

つながりの基盤を求めて』の意義と可能性を問う一」。(企画・司会・話題提供) 2019年3月18日, 早稲田大学戸山キャンパス.

#### 〈2019年度〉

- ・楽器とのかかわり=子どもが「モノと行為と音」の意味を自ら探す契機として. 日本保育学会第72回大会 自主シンポジウム「子どもと楽器の関係を根本的に問い直す」(指定討論). 2019年5月4日, 大妻女子大学.
- ・リズムの同期・同調と音楽. 日本赤ちゃん学会第19回学術集会 大会企画シンポジウム(企画). 2019年7月6日, 聖心女子大学.
- ・多感覚的かつ協同的な活動としての音楽鑑賞を探求する試み—創作音楽教具“Kiki-Me”を導入したグループ・レッスンの実践—. 日本認知科学会第36回大会発表論文集(共著・ポスター発表), 561-566. [https://www.jcss.gr.jp/meetings/jcss2019/proceedings/pdf/JCSS2019\\_P2-10.pdf](https://www.jcss.gr.jp/meetings/jcss2019/proceedings/pdf/JCSS2019_P2-10.pdf) 2019年9月6日, 静岡大学浜松キャンパス.
- ・音楽の体験は子どもたちに何をもたらすか—心理学からみた「音楽—学び—育ち」の関係—. スガナミ音楽教養講座4(依頼講演), 2019年10月25日, スガナミミュージックサロン多摩ホール
- ・奏でる身体を支え、育む—心理学と教育的な観点から—. 第9回 日本音楽家医学研究会(招待講演), 2019年11月3日, 21 Komaba Center for Educational Excellence(東京大学駒場キャンパス内)
- ・赤ちゃん和楽器—アフォーダンスの視点から—. 日本赤ちゃん学会 2019年度音楽表現講座「赤ちゃん和音楽」(講座講師) 2019年11月17日, 甲南女子大学.

#### 〈2020年度〉

- ・乳児とモノ—アフォーダンスの知覚から考える—. 日本赤ちゃん学会第20回学術集会ラウンドテーブル「知覚発達研究と保育実践をむすぶ」(話題提供) 2020年9月20日, オンライン開催
- ・視覚・聴覚コンテンツとコミュニケーション、および一般:セッション2(座長) 電子情報通信学会ヒューマンコミュニケーション基礎研究会(10月研究会), 2020年11月1日, オンライン開催
- ・触れる、動く、聴く—“絆”の資源を探る心理学—. 駒沢女子大学仏教文化センター主催「学燈会」(講演), 2020年11月30日, オンライン開催
- ・乳児はどのように楽器と出会うのか?—『音の出るモノ』のアフォーダンスをめぐる知覚と行為の変化—. 日本発達心理学会第32回大会(共著・ポスター発表), 2021年3月31日, オンライン開催

#### 〈2021年度〉

- ・楽器と赤ちゃん—“鳴る”アフォーダンスがつなぐもの— 日本赤ちゃん学会第21回学術集会 音楽部会企画ラウンドテーブル「赤ちゃんはつながっている: コミュニカティブ・ミュージカルティから音楽文化へ」(話題提供), 2021年6月12日, オンライン開催
- ・Exploration of the musical instrument: Longitudinal observation of infant-mother play with sound-producing toys. *The 16th International Conference on Music Perception and Cognition and 11th Triennial Conference of the European Society for the Cognitive Sciences of Music (ICMPC16-ESCOM11 Joint Conference)*, July 31, 2021. virtual conference (poster).
- ・Enriching children's experience of hearing with an original sound-collecting instrument: A pilot study. *The 13th Asia-Pacific Symposium for Music Education Research (APSMER)*, September 18, 2021. virtual conference (oral presentation).
- ・「音楽性」が導く文化的な価値の学習—親子の楽器遊びにおける行動の資源の共有と Communicative Musicality—. 第31回 日本乳幼児医学・心理学会 Colwyn Trevarthen 博士 生誕90周年記念企

画・シンポジウム「Communicative Musicality (絆の音楽性) と間主観性」(招待講演・話題提供), 2022年2月19日, オンライン開催

- ・アフォーダンス, 文化, コミュニカティヴ・ミュージカルティ: 親子の楽器遊びを手がかりにして. 日本発達心理学会第33回大会 自主シンポジウム「音楽性の学際的探究からの提言: 『音楽的な子どもたち』に導かれる発達観へ」(話題提供), 2022年3月6日, オンライン開催
- ・音のエコロジー: 子どもと楽器のかかわりから見えてくるもの. 2021年度 日本赤ちゃん学会 音楽表現講座「赤ちゃんと言楽」オンライン・フォーラム (ショート・レクチャーおよび座談会パネリスト), 2022年3月27日, オンライン開催

#### 〈2022年度〉

- ・「自由」も「ちゃんと」もそこに在る: 正と負のアフォーダンスから楽器の扱いを考える. 2022年度 日本赤ちゃん学会第22回学術集会 音楽部会企画ラウンドテーブル「楽器を『自由に使うこと』と『ちゃんと使うこと』のつながりと隔たり. 2023年7月3日, 自治医科大学
- ・ちゃんと楽器: アフォーダンスの視点から. 2022年度 日本赤ちゃん学会 音楽表現講座 (ステップアップ講座), 2022年8月7日, オンライン開催

#### 【競争的研究資金の獲得】

##### ■科学研究費補助金

#### 〈研究代表者〉

- ・基盤研究C, 課題番号15K00212: 研究課題名「音楽的行動の発達基盤に関する研究: 身体性認知科学および生態心理学からのアプローチ」, 期間: 2015年4月-2019年3月.
- ・基盤研究C, 課題番号21K02416: 研究課題名「音楽発達のエコロジーの解明に向けた音具の開発と実践への応用に関する研究」, 期間: 2021年4月-2024年3月 (予定).